

もしもの備えを学ぼう

被災体験をもとに防災講演会を実施

6月12日(水)紋別社協ボランティアセンターでは、岩手県大槌町で災害に遭遇し現在は、岩手県遠野市で避難生活を余儀なくされている伊藤定夫さんをお招きして、防災に関する講演会を開催いたしました。紋別社協が行っている遠野市でのボランティア活動が縁で今回の講演会が実現いたしました。

伊藤さんは、日頃から津波がきたら、駅の誘線橋に逃げると決めており、震災の日も誘線橋に避難。しかし、誘線橋も完全に水没。濁流に押されながらも、必死に鉄骨にしがみつき、水が引いた後も流れてくるカーテンを身にまとい、一夜を明かしました。日頃から避難場所を決めていたことが一命を取り留めたことにつながりました。自分が生きた意味は「同じ思いをさせないように、生きた者が語り継ぐことだ」という思いから

紋別にお越しいただきました。

伊藤さんがお話しされた備えについて一部ご紹介いたします。



災害への備えについて

- 紋別の街をみて思うことは、横に逃げるな。海を背にして山に逃げること。
- 一度は必ず避難経路の確認をすること。日頃の訓練が絶対大事。
- 地震発生後の家族の役割を決めておくこと。玄関を開ける係や、ガスを手エックする係など。
- 自然災害は想定外が沢山ある。「これくらいは大丈夫」と思うな。
- 北海道は必ず寒さ対策の用意をすること。



当時の状況を語り、紋別での備えについて話す伊藤さん